



濁川中だより

令和5年
3月8日
第10号



式辞

白雪の中、深紅の椿が厳しい寒さに耐え忍び、中庭では、いつのまにか柔らかな風とともに、新たな命の息づかいが感じられる季節となりました。

本日、PTA会長朝妻亮一様、学校運営協議会会長赤間松次様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、第七十六回 新潟市立濁川中学校卒業証書授与式を挙げてまいりました。心より御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。九カ年の義務教育を終え、卒業証書を受け取る皆さん一人一人の凛とした姿から、新たな道に進む決意と希望を感じました。

皆さんの中学校生活三年間は、ここにいらつしやる方々の誰一人として、今までに経験したことのない三年間でした。皆さんが小学校卒業間近の令和二年三月二日に全国一斉臨時休校措置がとられました。その中で小学校の卒業式、そして中学校入学式を迎え、結局、休校措置は約三ヶ月にも及びました。再開された後も感染対策により様々な教育活動が制限され、学校でもマスクをしたまま三年間を過ごすことを強いられました。

しかし、そのような困難な状況の中でも、皆さんの頑張りには本当に「見事」の一言でした。私は昨年度から皆さんと一緒に学校生活を送ってきましたが、昨年度の合唱コンクールでは、その後の講評で「二年生は期待しれない」と話をしたように、皆さんの素晴らしい力を予感していました。

そして、今年度、最高学年として、生徒会スロガン「濁中物語 we are writers」のもと、困難をもととせず、体育祭、合唱祭などで紡いでくれた鮮やかな物語は、ここでは言葉が必要のない

いくらい、見る者の「心」に感動を刻んでくれました。

これからは先の見えない「予測困難な時代」といわれています。皆さんが生まれた直後の2010年から、日本の人口は初めて減少し始めました。そして2100年の日には明治維新の頃と同じ人口、約五千万人まで減少するといわれています。つまり、これからは、人口が増加してきた中で培われてきた今までの知恵が使えない時代、我々にとっては未知の時代になるということです。

しかし、今までは未来が予測できたかという、決してそうではないと思います。これまでも想定外の困難に直面してきましたが、常にそれを克服してきたのが我々人類の歴史であり、大切なことは、自分の目でしっかりと「今」を見つめ、自分の考える「未来」を描き、「希望」をもって行動することだと思えます。先が見えなくても、希望をもって仲間と知恵を出し合い、協力して困難を乗り越える努力ができれば、今ほどわくわくする現在、そして未来はない、とも言えます。このコロナ禍では、学校でも本場に様々な議論がなされました。時には意見の対立もありました。しかし、みんなが未来を考え、思いや願いをぶつけあい、話し合い、行動することで、学校も、そして社会も大きく変化しました。

皆さんが送ったこの三年間は、決して「失われた三年間」ではなく、この混乱の中で示した皆さんの姿は、未来への「光」であると感じています。体育祭前、合唱祭前、様々な制約と困難、そして不安の中でも、きつとわくわくした思いがあったと思います。そして、それが原動力となり、仲間と力を合わせ、素晴らしい成果を残したことを、みなさんは「強み」として身に付けているはずです。

是非、濁川中学校で過ごした三年間の学校生活を自信にして、これからも、今までの当たり前前にとらわれず、自分なりの未来の姿を思い描き、新たな価値、新たな社会を創造し

ながら、その姿の実現に突き進んで欲しいと願っています。

保護者の皆様、本日はおめでとうございます。この三年間は本当に様々なご心配があったと思います。学校としては、その時、その時の最善を教職員で考えて努力して参りました。時には至らぬ点があったかとも存じますが、本校の教育に対して温かいご理解とご支援をいただきましたことに、心より御礼を申し上げます。

ご来賓の皆様、本日は卒業生の門出を見送っていただき、ありがとうございます。また、小学校からの義務教育の九年間、子どもたちを見守っていただき感謝申し上げます。通学の見守りだけでなく、冬には、早朝の寒く暗い中での通学路の除雪作業、また、見えないところでも子どもたちの安全を考えたご配慮、ご支援をいただくことで、学校も安心して、そして安全に教育活動を行うことができました。心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後に卒業生の皆さんにお願いがあります。何年後かに開かれる同級会、同窓会で、是非、校歌を大きな声で歌ってください。残念ながらこの卒業式でも全校で校歌を歌うことは叶いませんでした。校歌の歌詞には、皆さんが育った濁川の美しさを表す言葉、地域を思う言葉、そして学校創立時の建学の精神、地域の願いが込められています。この濁川でお世話になったすべての人への感謝の気持ちを中学校の思い出とともに、大きな声で歌える日が来ることを願っています。

これからの皆さんの限りない前途を祝し、一層の成長を心から祈念して、本日の式辞といたします。

日差しが一日ごとに暖かさを増し、桜も色づき始める季節となりました。はじめに、コロナ禍で大変な中、私たちのためにこのような心温まる卒業式を挙行していただきありがとうございます。また、ご来賓・保護者の皆さま。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私たち六十五名は今、卒業の時を迎えます。

この濁川中学校で過ごした三年間は驚きと発見で溢れていました。三年前、私たちは大きな不安と期待を胸に新品の制服を着て、この濁川中学校に入学しました。難しくなる勉強、本格的な部活動楽しみなこともたくさんあれば、ランチの購入、自転車通学などよくわからないこともありました。今では当たり前の日常であることも当時は少しだけ大人に近づけたような気がしたことを覚えていきます。このような初めての事ばかりの新しい学校生活に戸惑いながらも、先輩方の時に優しく、時に厳しいご指導のおかげで充実した日々を過ごすことができました。

二年生に進級し、思い出に残っている行事は体育祭です。コロナが悪化した影響で、騎馬戦、大玉送り、新崎甚句など種目の縮小がありました。体育祭開催も怪しい中、先輩や全校生徒、先生、地域の方々の協力のおかげで無事に開催することができました。その時の諦めてはいけないという心とやり遂げたことによる達成感は私たちがこれから成長していく上で必要な力の一つを手に入れた瞬間だと感じています。



二年生の後半では、多くの活動の引き継ぎがありました。先輩方から引き継いで繋げて行かなくてはならないと言う責任と自分たちで新たな

学校を作り上げていくと言う気持ちの高まりを感じていました。

そして一年前、私たちは最上級生という大きな責任とともに中学生生活最後の年をスタートさせました。まず私たちが一番楽しみにしていた行事、修学旅行がやってきました。それまでは関西方面へ行く予定となっていたのですがコロナの影響で残念ながら方面の変更となってしまいました。県内での修学旅行となつたのですが、粟島の綺麗な海と優しい島民の皆様の歓迎のおかげで、修学旅行がとても楽しいものになりました。新鮮な魚を使つて作った粟島の料理、島民の方達と直接話し合い、粟島について知ることができた座談会、さまざまな海の生き物を見て癒された加茂水族館、先生方と楽しんだ胎内体験学習、最後の時間で精一杯楽しんだサントピアワールド。関西方面では作れなかったであろう最高の思い出をたくさん作ることができました。

そして七月、体育祭の季節がやってきました。軍決めが終わってからはとにかく大忙しでした。軍のイメージがわかるパネル作り。勝つための方法を模索した作戦決め。ダンスや応援を彩るための小道具作り。軍の中心となつて軍団を引っ張る応援。うまくいかないこともありましたが、団長会議で話し合いリーダーと全校生徒が力を合わせて解決することができました。コロナの影響で多くの制限がある中でも仲間と協力して、スローガンである「ラ・フェスタ、夢、団結、挑戦の祭典」に向かって頑張りました。体育祭当日は準備してきたことを出し切り、己の力で競い合い最高の思い出となりました。

十月には合唱祭が行われました。スローガンは「最響」。このスローガンを達成すべく私たちは、朝、昼、放課後と多くの時間を練習に注ぎ込みました。時には意見を戦わせ、時には励まし合い、より良い合唱にするにはどうすれば良いのか探した毎日

日々発見の連続でした。そして合唱祭当日、緊張の中それぞれのクラスの発表が終わり、結果発表の時間が訪れました。一年生、二年生と優秀賞が発表され、ついに私たちの番がやってきました。結果は：優秀賞三年一組そして、三年二組！前例のない結果になりましたが、自分たちが作り上げてきたものを出し切った合唱祭は最高の思い出となりました。

こうした行事が成功したのも全て、後輩である一・二年生の協力のおかげです。ありがとうございます。来年度皆さんは新入生を迎え入れ先輩となります。難しく時には辛い気持ちになるかもしれませんが、そこを上手に乗り越えるために私から皆さんに伝えたいことは「目標に向かって助け合う」ということです。一人では大きすぎて超えられない壁がたくさん現れると思います。そんな時こそ助け合いが必要となります。そしてその壁を乗り越えた時、皆さんの気持ちは一体感を増し、一人一人の輝きも増します。その一体感と輝きでこの濁川中学校を最高の学校にしてください。

最後になりましたが、これまで私たちが暖かく見守ってくださった地域の皆様、共に喜び、時に厳しく叱つて私たちを導いてくださった先生方、本当に今までありがとうございます。そして、これまで育ててくださった保護者の皆様。思春期の私たちはなかなか素直になれず、私たちのためを思つてかけてくれた言葉も、受け止めることができないこともありました。特に三年生になってからは進路を決めなければいけないこともあり話し合いでは思うように進まない時もありました。それでも、どんな時も私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれる、その温かさが本当に嬉しくて、何度も心の中で感謝しました。普段は照れ臭くて口には出せませんが、いつも感謝しています。私たちがだんだん自立していき、いつか親元を離れますが、そ

れまでもうしばらくお世話になります。この最高の仲間と出合い、この最高の仲間と共に卒業できることをとても嬉しく思います。

これから私たちはそれぞれの進路に向かって一歩一歩自分の足で歩いて行きます。今後大きな壁にぶつかったとしても、この濁川中学校でえた多くの思い出、学び、誇りを人生の糧として、乗り越えて行きます。本当に三年間ありがとうございました。濁川中学校の益々のご発展を心より祈念して答辞といたします。



2階から3階に向かう東階段に掲示されている「卒業生から1, 2年生への感謝の気持ちを伝えるメッセージ」

柔らかな早春の日差しの中、草木も新芽を吹き出そうとしている今日のこの良き日に、濁川中学校を巣立って行かれる三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

先輩方には、行事や生徒会活動など、学校生活の様々な場面でリードしていただきました。何事にも全力で取り組む姿勢は、私たち後輩のあこがれでした。

体育祭では、先輩方の仲の良さ、団結力の素晴らしさをみせてくださいました。応援練習の時に、「二年生に優しく、「良くなくて来たよ、もう少し頑張ろう！」と声をかけてくれた先輩の姿は、太陽のようにまぶしかったです。また、三学年競技の綱引きは、とても白熱した戦いで盛り上がりましたね。この競技から、仲間との協力や最後まで諦めず、やり遂げることの大切さを学ぶことができました。

合唱祭では、それぞれのパートが響かせる深みのある美しいハーモニーに圧倒されました。三年一組の皆さんは、アカペラで歌うという難しいことに挑戦されていました。その困難も、団結力を武器に見事に合唱を完成させ、ホールいっぱい美しい歌声を響かせる姿に、在校生一同感動したことは記憶にも新しいです。三年二組の皆さんは、ソロパートがある曲に挑戦されました。それぞれのパートが響かせる、まとまりのある美しいハーモニーが素晴らしかったです。美しくまとまりのあるそれぞれのパートの歌声に加え、ソロパートでも



男女の歌声の美しさに感激しました。どちらのクラスも、会場全体に響きわたる歌声は、今年のスロークラウド「最響」にぴったりでした。来年度は、私たち二年生が先輩方のような姿

を後輩に見せていけるように頑張ります。

私が先輩方と深く関わるようになったきっかけは、生徒会本部事務局員を務めたことです。はじめは三年生の存在感に圧倒させられているばかりの私でしたが、先輩方のユーモアあふれる人柄に、いつも笑顔をもたらすことで、生徒会本部の一員として、有意義な時間を過ごすことができました。また、スライド作りの技術や新しい企画の考え方など、生徒会活動を進めるにあたって学んだこともたくさんあります。生徒会本部の先輩方と一緒に活動したことは、一生忘れません。

三年生の先輩方は、行事だけでなく、日常生活でも活躍されていました。朝早くから、委員会の仕事で玄関に立ち、明るく爽やかな声で私たちに挨拶されたり、廊下のモップがけを丁寧にされたりしていました。放課後には、部活で先輩をまとめたリ、受験に向けて勉強したりするなど、何事にも真面目で全力でした。そんな皆さんを、私たち一、二年生はとても尊敬しています。

今年度、生徒会本部の三年生の案で、昼の放送に濁中インフォメーションを取り入れられました。これを通して、濁中の現状を学校全体で感じられるようになり、昼の放送も楽しめるようになりました。今後も継続していきたいと考えています。

私たちは、いつも先輩方の大きな背中を見てきました。明日からその背中が見えなくなってしまうと思うと、不安な気持ちでいっぱいです。先輩方も、四月からの新しい環境に不安を感じたり、期待で心を躍らせていたりしていると思います。

新しい生活の中で、もしかしたら、今までに出会ったことのないような大きな壁にぶつかることもあるかもしれません。でも、そんなときこそ、自分の力を信じてください。どんな時でも、前向きに笑顔でいてください。皆さんなら、きっと乗り越えて

ることができると思います。

最後になりましたが、今日まで濁川中学校と私たち下級生を支えていただき、本当にありがとうございました。

卒業生の皆様のご活躍とご健康を、在校生一同、心より願ひ、贈る言葉とさせていただきます。



「1, 2年生から卒業生へのありがとうメッセージ」



美術部による卒業を祝う作品



「卒業生保護者からのメッセージ」(PTA 企画)

令和5年度 濁川中学校 教育ビジョン

二月二十四日（金）に、第四回学校運営協議会が行われました。そこで、「令和5年度の濁川中学校教育ビジョン」についての説明・審議・承認が行われました。

令和5年度のビジョンは、令和4年度の考え方を引き継いでおり、濁川中学校の教育目標「ねばり強く創造的に生きる たくましい生徒」の達成を目指しています。

令和4年度のビジョンでも目指していた学びの四つの実感（「社会に貢献でき役に立つ実感」「資質・能力を伸ばし成長する実感」「協働・共感でき支え合う実感」「一歩を踏み出し挑戦する実感」）を確かな自信に繋げる取組を継続していきます。

そのために、ビジョンの下部にも示してあるとおり、令和5年度は

「こと」「もの」「ひと」との「対話」を重視した取組を行っていきま。ビジョンでは、この「対話」が潤滑油のように、授業や学級、地域、総合的な学習の時間、生徒会などを動かしたり、つないだりしていくイメージを表現しました。このように対話で見つけた新しい価値が、生徒の「自信」になり、ふるさと濁川や広く社会で生かされることに

よって、四つの学びが実感されることを願っています。

「対話」する場面は様々です。例えば、次のような場面です。

- ・ 生徒の「問い」や「思い」を広く深く引き出す場面
- ・ 生徒の振り返りをもとに、考えを確かなものにしたたり、次の学習につなげる場面
- ・ 生徒による自治活動における課題の整理・分析や解決の場面
- ・ 生徒会や学級活動における活動の振り返りの場面
- ・ 地域や社会から課題を見出す場面

令和5年度 新潟市立濁川中学校教育ビジョン

学びの実感を、確かな自信に、繋げます

The diagram features a central globe with the text '教育目標 ねばり強く 創造的に生きる たくましい生徒' (Educational Goal: Tenacious, Creatively Living, Proud Student). Surrounding the globe are four colored circles representing '実感' (Realization):

- Yellow: '役に立つ 社会に貢献できる 実感' (Realization of being useful and contributing to society)
- Red: '成長する 資質・能力を伸ばす 実感' (Realization of growing and developing qualities/abilities)
- Blue: '支え合う 協働・共感できる 実感' (Realization of supporting each other and cooperating/empathizing)
- Pink: '挑戦する 一歩を踏み出す 実感' (Realization of challenging and taking the first step)

 Below the globe is a map of the region with the text '地域で実践しGLOBALな視野を広げます' (Expand global vision through practice in the region). At the bottom, it says '【濁川小・中の目指す子どもの姿】 濁川を愛し、自分の良さを生かして、仲間とともに挑戦し続ける子ども' (The image of children we aim for at Tsumikawa Elementary and Junior High: Children who love Tsumikawa, use their strengths, and continue to challenge themselves with their peers).

自信

対話

「対話」で見つけた新しい価値

学級 授業 総合 地域

生徒会 主体性

学級 授業 総合 地域

生徒会 主体性

他にも、様々な場面が考えられます。

令和5年度、濁川中学校では「対話」を重視した取組を行い、「濁川を愛し、自分の良さを生かして、仲間とともに挑戦し続ける」生徒を目指します。

令和5年度も引き続き、地域全体を学びのキャンパスと捉え、教育活動のフィールドを可能な限り、地域に広げるように努めていきます。様々な場面で、保護者や地域の方々のお力をお貸しいただくことがあります。今後とも、「ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。」